

和地ひとみレポート No.381

平成31年度 施策評価結果報告書

市政全体の課題はわかりやすいが、 評価報告書を作成する真の目的は？活用方法は？



■東大和市の行政評価

…東大和市では毎年、3つの方法で市の取組み（施策、事業等）について評価を行っており、その評価を総称して『行政評価』と呼んでいます。市は、この行政評価により「仕事の成果を重視する」、「限られた財源・人材を有効活用する」、「職員の意識改革などを進める」こととし、これらを推し進めることで、より簡素で効率的な行政運営の実現を目指しています。

【東大和市の行政評価】

◆施策評価

東大和市第四次基本計画に掲げる32施策について「施策評価シート」を活用し評価。総合計画に掲載の指標等に基づいて進捗状況を把握・分析するとともに、前年度の主な取組や課題を振り返り、今後の方向性について検討する。

◆事務事業評価

前年度に実施した事業（毎年400事業以上）について「前年度に実施した仕事の振り返りシート」を活用し、各担当課が目的を明確にした上で、現状の把握、今後の方向性を検討し、評価する。

◆行政評価推進会議における事務事業評価

上記の事務事業評価のうち、いくつかの事業について、市長が指名した者（4名以内）と公募による市民（4名以内）で構成された市民事業評価会議において、市民の視点から評価を行う。

…3点目の「行政評価推進会議における事務事業評価」は、「市民による外部評価」として平成24年度（2012年度）から2年間の試行後、平成26年度（2014年度）から本格的に実施されるようになった評価です。スタート当初はこのような市民による評価を実施している自治体は少なく、“東大和方式”と呼ばれて話題になっていました。

…今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、この行政評価推進会議は実施されておらず、よって、この評価も行われていません。今後、新型コロナウイルス感染症がどのように会議開催に影響を及ぼすのかは不明ですが、「行政評価推進会議における事務事業評価」の方法の見直しや、代替となる評価方法も検討することが必要になってくると思います。

■施策評価とは

…上記の通り、今年度の行政評価は「行政評価推進会議における事務事業評価」が無いものとなりましたが、その他の評価、すなわち「施策評価」と「事務事業評価」は通常通り実施されています。公表はホームページへの掲載や図書館等での閲覧などで行われますが、今年度は3月1日からとのことです。

…この公表される行政評価のうち「事務事業評価」は、事業ごとのシートを担当課が1事業1枚作成し、その数は400枚以上になります。一方「施策評価」は、結果報告書が1冊の冊子にまとめられているため、市の主たる施策の進捗や課題を全体的に見渡すことができる内容になっています。

…この施策評価は、第4次基本計画（計画期間：平成25年度～平成33年度＝令和3年度）のなかで、その進行管理方法として『行政評価制度を活用して施策の進捗状況を把握し、それにより、毎年度のローリング方式（*環境の変化に応じて、毎年度計画を見直す方式）で財政状況などを見据え、効果的・効率的に施策のめざす姿を達成する仕組みを構築する』とされていることを受けて実施されている評価です。

…この基本計画には5つの分野別と市政全体に関わる「適正な財政運営の実現」を加えた6つの分野に32の施策が立てられ、この施策ごとに様々な目標数値が設定されています。この目標数値については、財政や実際の数値が把握できるものについては、目標に対して現時点の進捗状況や取組みの効果について疑う余地なく確認できますが、目標数値の中には「市民の満足度」といった市民意識調査の結果を設定しているものもあり、このような数値については、いわゆる感覚値に感じられるものもありますが、一定の現状把握として、今後の方向性を決めるには一定の効果があると考えざるを得ません。

【施策評価の内容】

第四次基本計画における施策ごとに

- ➡ 施策のめざす姿＝実現したい目標の対象（市民の属性や団体など：例＝児童、地域など）とその意図を明記する。
- ➡ 評価シートを作成する施策を主管する課長とともに、関係する他の課の課長を明記
- ➡ 第四次基本計画で設定されている「主な成果・活動指標」と、その進捗度を明記。「〇〇に対する市民の満足度」という指標については、毎年、2000人の市民を抽出して実施する市民意識調査で「非常に満足」、「満足」と回答した市民の割合を使用。
- ➡ 評価する対象年度の主な取組
- ➡ 評価時点の課題
- ➡ 今後の方向性（対策）

■今回公表されるのは平成31年度の施策評価

…前述のとおり、この施策評価には「評価時点の課題」と「今後の方向性（対策）」が明記されていますが、今回公表されるのは平成31年度の施策評価。つまり、前年度のもので、その評価が今年度の最終月に公表されるというのは、遅すぎる感があります。

…ここで示される「今後の方向性（対策）」は、言い換えれば今年度（令和2年度）に実施する対策や方向性も含まれているということで、その実施のための財政的な対応は今年度の予算となります。しかし、今年度の予算は昨年3月に議決されており、平成31年度の取組みから見える課題や対策などと予算がどう関連しているのか確認できる資料としての施策評価は予算決定の1年後に出てくるということになっています。

…予算については実施計画にある事業を中心に作成する、施策の振り返りは年度を閉じてからでないと（すなわち3月31日を迎えてからでないと）できないという行政側の言い分も理解はできますが、とはいえ、予算を審議する市議会議員としては前年度の平成31年度の状態や課題を確認したうえで予算を審議すべきではないかと思うところです。

…また、平成31年度の振り返りが令和2年度最終月に出てくるというこの状況で、実際に施策に取り組んでいる行政側は、この施策評価結果をどのように活用しているのでしょうか。考えたくはありませんが「施策評価をすることになっているからシートを作成する」といった、施策評価シートを作成することが目的化していないか心配になります。せつかく時間を割いて取り組む行政評価を活きた取組みとするよう、活用方法の見直しも必要だと思います。

■様々な指標から見えること

…この施策評価結果報告書を見ると、市政全体の現状を様々な指標で大まかに把握することができます。今回の結果報告書でも気になる点が多くありましたが、ここでは、気になったいくつかの実際の数値（市民意識調査の結果ではないもの）の指標について、※で気になった点を示して紹介したいと思います。

【豊かな人間性と文化をはぐくむまちを築くために】

◆「学校教育の充実」における指標

→不登校児童・生徒の全児童・生徒に占める割合（％）

	H27	H28	H29	H30	H31	R3 目標値
小学校	0.36	0.42	0.49	0.72	0.84	0.28
中学校	2.94	3.21	3.58	4.29	4.81	2.94

※不登校児童・生徒ともに目標値と大きく開きがあるだけでなく、増加傾向にある。今後、どのように目標値に近づけるのかと同時に、不登校児童・生徒の学習を補うために1人1台の端末をどのように活用するのか。

→いじめを受けた児童・生徒の全児童・生徒に占める割合（％）

	H27	H28	H29	H30	H31	R3 目標値
小学校	0.18	0.33	0.56	0.81	1.04	0.00
中学校	0.57	0.62	1.04	1.10	1.75	0.00

※いじめの認知件数が増加しているのは、小さいいじめも見逃していないためとの評価だが、1％ということは100人に1人とかかなり割合としては大きいということ認識した対策が必要では。

◆「青少年の健全育成」における指標

→犯罪少年検挙人員

	H27	H28	H29	H30	H31	R3 目標値
	60人	54人	59人	62人	65人	39人

※このほか、触法少年補導人員も目標値19人に対し37人で平成28年の11人から大幅増。子ども達を取り巻く環境の変化により思いもかけないトラブルに巻き込まれるケースが多くみられるとのこと。日本一子育てしやすいまちを目指す東大和市としては、早期に改善すべき大きな課題。関係課長に学校教育関係が入っていないことは問題ではないか。

【環境にやさしく安全で快適なまちを築くために】

◆「ごみの減量とリサイクルの推進」における指標

→市民1人1日当たりのごみの排出量（g）

	H27	H28	H29	H30	H31	R3 目標値
	684.4	680.2	671.6	664.6	674.3	680.0

※目標値はクリアしているが、日の出町の最終処分場に搬入する焼却灰は配分量を超えており、分別の徹底を推進すること。一方で課題の一つには、市役所庁舎内のごみ分別やリサイクルに対する知識を職員に持たせることが。まずは市がお手本になるべきでは。

【相互の理解と協力で支えられるまちを築くために】

◆「共に支えあう地域社会の確立」における指標

→自治会への加入率（％）

	H27	H28	H29	H30	H31	R3 目標値
	34.80	34.00	33.30	32.40	32.00	36.80

※目標値の36.80%は指標設定時の加入率で、現状維持が目標。現状維持という目標では、抜本的な解決策を検討していないので、加入率は減少傾向。時代にあった地域のつながりを検討するなど必要では。

…ここで挙げた以外にも6分野における32の施策の指標は全部で83個あります。市民が行政全体のことを把握できる資料としては、この施策評価結果報告書は全32ページでわかりやすいものだと思います。ぜひ効果的に活用してほしいと思います。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。コロナ禍において、駅頭での配布は一時、控えております。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。『学校』の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

■ 連絡先

和地 ひとみ事務所

HP: <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp

【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102